

2009年1月5日

## 米倉 弘昌 社長 年頭あいさつ要旨

当社を取り巻く環境は大変厳しいが、事業構造や業務内容を抜本的に点検し、本質的な課題を抽出するとともに、対策を迅速に実施することにより、いかなる状況でも持続的な成長を遂げられるような、真に強靱な事業体質を早急に構築する必要がある。

中期経営計画の最重要課題である「ラービグ計画」は、本年3月までに全ての設備を本格稼働する予定。安全かつスムーズに商業運転に移行するために、引き続き気を緩めることなく、全力を挙げて取り組んでいただきたい。

今後グローバル化がさらに加速する中で、住友化学グループの全ての社員が、理念を共有することの大切さを思い、「経営理念」を制定することとした。「住友化学は、1. 技術を基盤とした新しい価値の創造に常に挑戦します。2. 事業活動を通じて人類社会の発展に貢献します。3. 活力にあふれ社会から信頼される企業風土を醸成します。」以上の3カ条だ。一人ひとりがじっくりと読み込み、いま一度、基本に立ち返って、当社の企業精神、あるべき姿を真摯に考えてほしい。

業務の抜本的な見直しを行う中で、現在の事業部門制もより高いレベルに引き上げたい。そのために、本社部門、事業部門、工場、研究所およびグループ会社それぞれが相互に緊密なコミュニケーションを行い、グループ全体の視点に立った業績改善や業務効率化を推進し、競争力向上を目指してほしい。

コミュニケーションの充実のためには、IT ツールに頼り過ぎないことが大切だ。face-to-face で自由闊達に議論を行い、組織の活力を最大限に高めることをお願いしたい。当社が目指す「創造的ハイブリッド・ケミストリー」も本社や研究所間の垣根を越えた活発な議論の中から生まれてくる。

いずれ、この世界的な経済混乱は落ち着くときがくる。その後、世界経済はどう動いていくのか、時代の変化を見据えながら当社の長期的ビジョンを立てたいと思う。皆さんも、社会の変化を感じ取る感性と将来を見通す目を養っていただくとともに、自分自身の仕事の夢を持ち、その実現に向けて努力してほしい。

「疾風に勁草を知る」といわれるように、困難な状況下でこそ、企業の真の実力が試されると思う。この経済情勢をビジネスチャンスに変え、グローバルカンパニーとしてのさらなる飛躍を実現させるという気概を持って、今年一年、明るく澁刺として、それぞれの課題に取り組んでいこう。

以上